

Support



<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No.2

令和6年7月4日

編集・発行

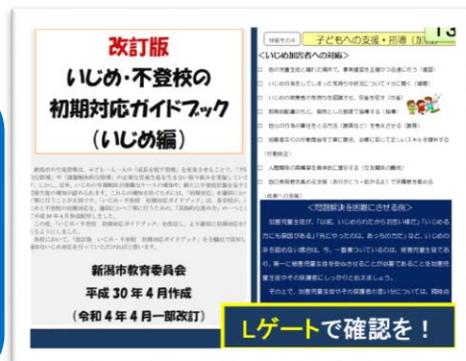
学校支援課 広報担当

今年度の生徒指導「いじめ防止」、「不登校支援」 取組について紹介します！

1 いじめ防止の取組

(1) いじめアンケートの確実な実施

いじめを見逃さないスクーリングの1つとして、「いじめアンケート」(年三回以上)を、本市全体で取り組んでいます。アンケート実施後は、**即日、複数人での確認**をお願いします。いじめが発覚した際は、いじめミーティングを開催し、組織での早期対応を引き続き、お願いします。なお、いじめの程度は、校長先生が決定します。



(2) いじめ初期対応ガイドブックの活用と 校内いじめ対応ミーティングの徹底

① いじめ初期対応ガイドブックの活用

生徒指導事案について、担任や担当のシンキングエラーや初期対応の不備によって、事態が深刻化するケースがあります。「いじめ初期対応ガイドブック」には、解決までの流れ、事実確認の仕方、被害・加害児童生徒への支援・指導、保護者への連絡・連携などの「具体的な進め方」が記載されています。今一度内容を確認して、適切かつ丁寧に行ってください。

② 校内いじめ対応ミーティングの徹底

生徒指導の課題が複雑化しており、一人で対応していくことには限界があります。また、法律上でも、個人での抱え込みは許されず、報告義務があります。些細なことでも声を上げ、課題解消に向けて、必ず組織として対応してください。

そのためには、日頃から様々なことを相談し合える職員間の関係が重要となります。「教職員の支持的風土の醸成」も大切にしてください。

(3) いじめ未然防止に向けた教育プログラムについて

① 本教育プログラムの趣旨

本市では、いじめの積極的な認知による早期発見によって、いじめの1000人当たりの認知件数は、全国で最多となっています。さらに、適切な初期対応、対処によって、全国平均を上回る解消率となっています。これは、本市のいじめ重大事態絶無に向けた取組に先生方からご尽力いただいている成果であると捉えています。

今後、本市が取り組むべきいじめ防止対策として、これまで行ってきたいじめ認知への高い感度を維持しながら、いじめ自体を減らす取組が必要であると考えています。そこで、令和5年度から本市では、小学校、中学校に、「いじめに関する知識理解の学習」と「心の教育 道徳科の授業」をパッケージ化したいじめ未然防止に向けた教育プログラム「いじめに正面から向き合う学級活動(2)と道徳科の授業」の実施を義務化しました。

小1・3・5、中1で実施

② 本教育プログラムの概要

ア いじめに正面から向き合う学級活動(2)の指導構想

法律や調査・研究結果を知識として示し、子どもにいじめについて正面から考えさせることで、**いじめ問題についての理解を深める授業を目指す指導構想**となっています。



イ いじめに正面から向き合う道徳科の指導構想

全ての学年で年4教材実施

教材の問題場面から子どもにいじめに係る問題を見出させ、「自分の経験を基に考える」「多面的・多角的に考える」といった思考を促すことで、**子どもがいじめについて正面から考える中で道徳的価値の理解を深める授業を目指す指導構想**となっています。

ウ いじめに正面から向き合う学級活動(2)と道徳科の指導の関係

令和6年度は、小学校1・3・5年生、中学校1年生で学級活動(2)の授業を行い、知識を伝えるとともに、いじめ問題に係る問題意識を高めます。また、すべての学年で 様々ないじめに係る問題場面を教材とする道徳科の授業を設定し、主体的にいじめ問題について考えさせ、いじめ問題解決に必要な道徳的価値の理解を深めます。

データ(プレゼン資料や指導案)はすべてこちらに格納 ↓
C4thの書庫>閲覧>生徒指導>いじめ未然防止に向けた教育プログラム

学校一体となった取組をお願いします!

2 不登校支援の取組

(1) スペシャルサポートルーム (SSR) について

<SSR設置の目的>

自分のクラスに入りづらい児童生徒の学校内の居場所を確保し、不登校を未然に防止するとともに、不登校児童生徒の登校復帰を支援する。



まずは、
居場所づくり！

<設置状況と成果と課題>

昨年5月時点で18校だった小学校のSSR設置校は、見守りスタッフの配置により51校に増加し、市内の約半分の小学校に設置できています。

右表のように通室実人数も増加し一定の成果が期待できます。

今後は、設置を希望する全ての学校への設置を目指していきます。

令和5年度SSR通室児童生徒実人数

小学校における設置率・・・51校(48%)
中学校における設置率・・・52校(91%)

	通室 実人数	不登校傾向 30日未満	不登校 30日以上	
小学校	222	94	128	不登校児童の 7人に1人
中学校	523	160	363	不登校生徒の 4人に1人
合計	745	254	491	

<SSRモデル校の児童の声>

- 毎週火曜日は、学校に行けるようになったし、楽しく過ごせている。
- 自分のペースに合わせて勉強したり活動したりできる。行きやすい。
- 一人でいる時よりも落ち着く。緊張せずに話せてとても楽しい。

<SSRモデル校の保護者の声>

- 登校しぶりのあった子が、自分から学校に行く！と言える場ができた。
- 登校のリズムができて、登校へのストレスが軽減され親子共々、穏やかです。
- 笑顔で学校の話をしていて親として本当にうれしい。

(2) 毎月の不登校・不登校傾向報告シートの活用

①「学校内外対応」欄の追加

これまでの報告目的のシートから、情報共有のためのシートへ！

⇒ SSRや相談室、SC、SSWなど児童生徒との連携を把握

②欠席日数別色分けの追加

⇒ 欠席状況を一目で確認、比較できるよう4段階(30未満、30、50、90)で色分け

③積極的な報告シートの共有

⇒ 毎月の報告シートを職員内で情報共有することで不登校に対する意識向上